

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもって、好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は複式学級のある小規模校である。小規模特認校制度による転入児童の受け入れが始まり、全校児童は22名である。多くの児童が市内全域から転入し、バス通学をしている。また、小中一貫教育も行われており、コミュニケーション科（英語・ことば）など様々な表現活動の場を設定して取り組んでいる。声に出して発表することが苦手な転入生もいたが、自分の考えを相手に伝えようと意識し取り組み、すこしずつ表現できるようになってきている。しかし、在校生も多くの転入児との出会いから新たな人間関係づくりが求められるようになり、課題の1つとなっている。そこで、異学年交流などの様々な体験活動を取り入れることで、お互いを知り、相手を思いやる心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 日立特別支援学校との交流学习（2年生）
- イ なかよしフォーラムの実施（人権集会）
- ウ 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）

2 実践内容

(1) 日立特別支援学校との交流学习

今年度も6月と11月の2回実施した。昨年度1年生の時にも交流をしていたので、とても楽しみにしていた。6月の「なかよし集会」では、学校紹介や名刺交換やゲームなどを行った。昨年度よりもお互いをよりよく知るために積極的に声をかけて、仲良く活動することを目標にした。中里交流センターでは、音楽に合わせてダンスやゲームを楽しんだ。本校児童が進んで声をかけて遊びに誘ったりして、自然に仲良く交流することができた。とても始めは緊張をしていたが、昨年度よりも友だちの顔や反応を見ながら、思いやりの心を持って接する姿があった。

11月の「なかよし集会」に向けて、相手が遊びやすい手作りゲームを計画した。昨年度よりも「どんなふうに説明をしたら分かりやすいか」「どんな工夫をすればゲームがやりやすいか」などを考え、相手意識をもって集会の準備が行えた。今回も2回実施できたことにより、より深い心の交流ができたと感じた。最後のプレゼント交換になり、今回で交流が終わってしまうので、本校児童は名残惜しそうにいつまでも「ありがとう」と声をかけていた。1・2年生で交流を行うので、3年生になると交流が途切れてしまう。3年生以降も児童間のつながりを深めるために、今後も継続して手紙などの交流を続けていきたい。



(2) なかよしフォーラム（人権集会）の実施

みんなで仲良く生活ができるように、「今できること」について、学級毎に話し合いを行った。その話し合いをもとに、第1回目の「なかよしフォーラム」を行った。福祉委員会が計画・司会進行を行った。学級で話しあった「今できること」の学級の目標を模造紙に書いて、代表児童が発表した。学級や休み時間での他学年とのトラブルや些細な行き違いについて考えることができた。発表を聞き「なぜその目標にしたのか」が分かり、今後学級や他の学年との仲良くするためにはどうしたらいいか、具体例を挙げることができた。その発表を受け、ペア同士でお互いの良さを伝え合う「ありがとうメッセージ」を発表した。その後みんなで繋がり合えるゲームを行い、楽しい雰囲気作りができた。第2回目の「なかよしフォーラム」では、「今できること」が学級で守られているかどうか話し合い、経過報告を行った。どの学級でも「気持ちは仲良くしたいと思っているが、強い言葉が出てしまう」との意見が多かった。高学年が低学年にアドバイスをしたり、感想発表では「もっと優しい言葉で伝えたい」など、自分の言動を振り返ったりする

意見が多く出た。休み時間では言い争いも少なくなり仲良くしようとする姿が見られた。



(3) 豊かな体験活動の展開

ア みんなでランチ (年間3回実施)

健康委員会が中心になって、企画・準備・進行をしている。今年度から全校児童と教師全員で様々なグループに分けて、相談室で一緒に仲良く話をしながら給食を食べている。また、班ごとに食育クイズを行うことで連帯感ができ、たいへん盛り上がった。小規模特認校制度による転入児は、このような場で他の児童に質問をしたり話を聞いたりすることで友達になれるような効果も期待した。また、普段なかなか話せない校長先生などとの食事、児童はとても楽しみにしている。事後は、イラスト入りのカードに感想を書き、写真と共に掲示板に掲示し、楽しい雰囲気作りをしている。

イ 異学年との交流 (縦割り班活動)

本校は、縦割り班による清掃活動や田植えや稲刈り等を行っている。年度当初に、学年や兄弟、その他人間関係を考慮して教師側が4つの班に分けている。清掃では、場所をローテーションしながら取り組み、昼休みが終わると、高学年の児童は低学年の児童を教室に迎えに行ったり、終わった後は一緒に連れていったりする姿もよく見かける。また、上級生が、優しく声をかけながら、やり方を教えて清掃に取り組んでいる様子がとてもほほえましい。

ウ あいさつ運動や奉仕活動・感謝の手紙の作成

通学団でのあいさつ運動や落ち葉拾い・学年花壇の整備を全校で取り組むことができた。バス通学児はあいさつ運動に参加できないので、バスの運転手さんや補助員さんへ感謝の手紙を作成し、お世話になっている方々に、感謝の気持ちを行動で表わすことができた。

3 成果

- ・人権集会や人権コーナーの活用により、友達のよいところや考えなどの理解が深まり、他尊意識を育てたり、将来の夢や頑張った自分へのメッセージを書くことで自尊感情をも高めたりすることができた。今後もこうした取り組みをさらに充実させていきたい。
- ・小規模特認校制度による転入児が、早く本校に慣れて友達と仲良く生活できるようにするためにも、縦割り班活動や全校での活動は大変効果的であった。

II 今後の課題

人間関係づくりが苦手な児童も多く、行事等楽しい場面があると自分中心の考え方や行動をしてしまう児童が見られる。各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、人権に関する学習をより充実させ、児童一人一人の人権意識を高めるための取り組みを、計画的継続的に実践していきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

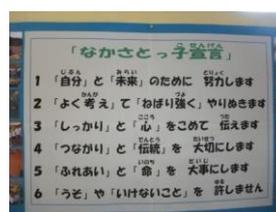
児童同士の「ありがとうメッセージ」を顔写真と共に掲示した。全校児童の「人権メッセージ」も掲示した。特別支援学校との交流会や隔年毎に取り組んでいる高齢者福祉施設での交流の写真などを掲示したりして、児童に啓蒙を図っている。各教室にも人権コーナーを設置して、自尊感情や他尊意識を高めていけるように努めている。



人権メッセージ



ありがとうのきもちをつたえよう



なかさとっ子宣言



なかよしフォーラム